

# 病害虫発生予察情報(5月予報)

平成 28 年 4 月 27 日  
静岡県病害虫防除所長

## 1. 予報概況

作物名	病害虫名	予報 (5月の県平均平年値)	予報の根拠
イネ	縞葉枯病 (ヒメトビウンカ)	縞葉枯病発生量：並 ヒメトビウンカ発生量：やや少	昨年8月中旬発生量 縞葉枯病：並(±) ヒメトビウンカ：少(-) 気象予報：気温：高い(+) 降水量：並～多い(-)
コムギ	赤かび病	発生量：並 (発病株率 6.4%)	4月中旬発生量：少(-)(発生なし) 気象予報：気温：高い(+) 降水量：並～多い(+)
ジャガイモ	疫病	発生量：やや少 (発病株率 4.6%)	4月下旬発生量：少(-) 気象予報：気温：高(±) 降水量：並～多い(+)
	ジャガイモガ	発生量：並 (寄生株率 0.1%)	4月下旬発生量：並(±)(発生なし) 気象予報：気温：高(+) 降水量：並～多い(-)
	アブラムシ類	発生量：少 (寄生株率 18.8%)	4月下旬発生量：少(-) 気象予報：気温：高(+) 降水量：並～多い(-)
チャ	チャハマキ	発生量：少 (寄生虫数 1.1 頭/1.25 m <sup>2</sup> ) 発生時期：やや早	4月中下旬発生量：少(-) (発生なし) 気象予報：気温：高い(+) 降水量：並～多い(-)
	チャノコカクモン ハマキ	発生量：少 (寄生虫数 0.2 頭/1.25 m <sup>2</sup> ) 発生時期：やや早	4月中下旬発生量：少(-) (発生なし) 気象予報：気温：高い(+) 降水量：並～多い(-)
	チャノキイロ アザミウマ	発生量：少 (叩き落とし虫数 12.0 頭/4 か所)	4月中下旬発生量：少(-) 気象予報：気温：高い(+) 降水量：並～多い(-)
	チャノミドリ ヒメヨコバイ	発生量：やや多 (叩き落とし虫数 1.2 頭/4 か所)	4月中下旬発生量：多(+) 気象予報：気温：高い(+) 降水量：並～多い(-)
	カンザワハダニ	発生量：並 (茶株面寄生葉率 4.0%)	4月中下旬発生量：並(±) 気象予報：気温：高い(+) 降水量：並～多い(-)
	クワシロ カイガラムシ	発生量：少 発生時期：やや早	4月中下旬発生量：少(-) 気象予報：気温：高い(+) 降水量：並～多い(-)

作物名	病害虫名	予報 (5月の県平均平年値)	予報の根拠
ウンシュウミカン	かいよう病	発生量：やや少 (発病度 0.1)	4月中旬発生量：少(－) 気象予報：気温：高(＋) 降水量：並～多い(＋)
中晩柑類	かいよう病	発生量：やや少 (発病度 0.9)	4月中下旬発生量：少(－) 気象予報：気温：高(＋) 降水量：並～多い(＋)
ウメ・モモ・ビワ・ナシ	果樹カメムシ類	発生量：並	越冬量：並(±) 気象予報：気温：高(＋) 降水量：並～多い(±)
キウイフルーツ	かいよう病	発生量：やや多	4月中旬発生量：並(±) 気象予報：気温：高(±) 降水量：並～多い(＋)
キク (露地)	白さび病	発生量：並 (発病株率 5.1%)	昨年10月下旬発生量：少(－)(発生なし) 気象予報：降水量：並～多い(＋)
	黒斑・褐斑病	発生量：多 (発病株率 8.7%)	昨年10月下旬発生量：多(＋) 気象予報：降水量：並～多い(＋)

#### 表の見方について

- ・ 予報の発生量は平年(静岡県過去の10年間)との比較で、「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠には、巡回調査に基づく発生状況(調査時期と発生量)、気象庁の1ヶ月予報(気温と降水量)を記入しています。その状況が多発要因の場合は(＋)、少発要因の場合は(－)を示し、＋－を総合的に判断して発生時期、発生量を予想しています。

## 2. 予報の根拠と防除対策

### 【イネ】

#### ●縞葉枯病(ヒメトビウンカ)

##### 予報の根拠

- ・昨年8月中旬の巡回調査では、縞葉枯病の平均発病株率は0.56%（平年0.60%）と平年並であった。
- ・昨年8月中旬の媒介虫ヒメトビウンカの最多寄生虫数の平均は0.7頭/株（平年1.4頭/株）と平年より少なかった。
- ・1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並〜多い。媒介虫ヒメトビウンカの発生が助長されるため、注意が必要である。

##### 防除対策

- ・発生地域では縞葉枯病抵抗性品種を利用する。
- ・発生地域ではヒメトビウンカ対策として必ず箱処理剤を施用する。

#### <その他の病害虫>

#### ●苗立枯病、いもち病(苗いもち)、ばか苗病、もみ枯細菌病、イネシンガレセンチュウ

##### 防除対策

種子消毒（作業を省かず、以下の点に留意して行う。）

- ・自家採種の種もみは塩水選を必ず行う。
- ・県病害虫防除基準に掲載の種子消毒法の手順を守り実施する。
- ・厚まきは発病を助長するため、適正な種量を守る。

##### 育苗管理

- ・出芽期は30℃以上、緑化期以降は25℃以上の高温とならないよう、できるだけ温度管理に注意する。
- ・シルバーポリシートによる育苗では高温多湿になりやすいため、換気を行い温湿度管理に注意する。
- ・本県ではMBI-D剤剤（「ウイン」、「デラウス」または「アチーブ」を含む剤）耐性いもち病菌が発生している。また、近年、他県ではQoI剤（「アミスター」または「嵐」を含む剤）耐性いもち病菌が発生し問題となっており、本県でも発生が懸念される。耐性菌の発生リスクが高い薬剤を使用する場合は、連用を避けるなど適切に使用する。（詳細は県病害虫防除基準の「殺菌剤耐性菌に関する各種資料について」の項を参照）

#### ●イネミズゾウムシ

##### 防除対策

- ・昨年6月中下旬の巡回調査では、イネミズゾウムシによる被害株率は14.0%（平年8.1%）と平年より多かった。常発地では箱処理剤を施用する。

#### ●イネドロオイムシ

##### 防除対策

- ・主に東部高冷地で発生がみられる。昨年7月中旬の東部高冷地における被害株率は2.8%（平年23.4%）と平年より少なかったが、一部ほ場で多発した。常発地では箱処理剤を施用する。

## ●スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)

### 防除対策

- ・例年5月以降に活動を開始し、移植後の苗を食害するため、普通期栽培水田では、移植後の薬剤処理を実施する。また、移植後2～3週間は食害を抑制するため、浅水管理（4 cm 以下）に努める。

## 【コムギ】

### <生育の概況>

生育は平年よりやや早い。

## ●赤かび病

### 予報の根拠

- ・4月中旬の巡回調査では、本病の発生は確認されなかった（平年0.04%）。
- ・1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並～多い。降雨や高温によって感染・発病が助長されることから、今後も注意が必要である。

### 防除対策

- ・開花期～乳熟期にかけて感染する。防除適期は開花期の前後である。
- ・本年は生育が平年よりも進んでおり、多くのほ場では適期を過ぎていると考えられる。は種の遅れたほ場など、生育の進んでいないほ場では、コムギの生育状況をよく確認し、適期と考えられる場合には防除を実施する。
- ・4月に発生が少なくても、降雨によって多発することがあるため、注意する。感染に好適な条件が続く場合には、予防散布に努める。

### <その他の病害虫>

## ●うどんこ病

### 予報の根拠

- ・4月中旬の巡回調査では発病株率6.8%（平年1.0%）と平年より多かった。
- ・1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並～多い。降雨や高温によって感染・発病が助長されることから、今後も引き続き注意が必要である。

### 防除対策

- ・穂揃期～開花期の止葉の発病葉率が50%を超えると、減収などの実質的被害が生じる。ほ場内の発生に注意し、発病葉率50%を超えると見込まれる場合は薬剤防除を実施する。
- ・風通しや日当たりの悪いほ場で発生しやすいことから、密植を行っている場合は特に注意する。

## ●赤さび病

### 予報の根拠

- ・4月中旬の巡回調査では発病株率2.2%（平年0.22%）と平年より多かった。
- ・冬が暖かいと越冬できる菌が多くなり、発生が増加する。本年は暖冬であったことから注意が必要である。
- ・1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並～多い。高温・高日照および少雨で発生が多くなることから、晴天が続く場合には注意が必要である。

## 防除対策

- ・開花始めの時期の止葉の発病葉率が25%を超えると、減収などの実質的被害が生じる。ほ場内の発生に注意し、発病葉率25%を超えると見込まれる場合は薬剤防除を実施する。

## ●アブラムシ類

### 予報の根拠

- ・4月中旬の巡回調査では寄生株率3.4%（平年11.2%）と平年より少なかった

## 防除対策

- ・ほ場内の発生に注意し、多発した場合は薬剤により防除する。

## 【ジャガイモ】

### <生育の概況>

生育は平年並。

## ●疫病

### 予報の根拠

- ・4月下旬の巡回調査では低率ではあるが発生が確認された（発病株率0.2%）。通常本病の発生は5月以降にみられ、4月の発生確認は、本病が多発した平成27年に引き続き2度目である。短期間で蔓延すること、生育初中期の発病は経済的被害が大きいことなどから、今後注意が必要である。
- ・本病原菌の発病適温は18℃～20℃で、多湿を好み、降雨により伝染する。1か月予報では気温は平年より高く、降水量は平年並～多いため、発生を助長する。

## 防除対策

- ・疑わしい症状がある場合や、周辺ほ場で本病が多発している場合など、感染源が多いと予想されるほ場では、天候に注意しながら薬剤を予防的に散布する。特に前年度に発生がみられたほ場では、土壤中の残渣で病原菌が生き残っている可能性があるため、防除を徹底する。
- ・発生ほ場では、治療効果や残効性の期待できる薬剤を7～10日おきに散布する。
- ・塊茎への感染を防止するため土寄せを行う。

## ●ジャガイモガ

### 予報の根拠

- ・4月下旬の巡回調査では寄生はみられなかった（平年 発生なし）。
- ・1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並～多いため、本種の発生は特に助長されない。

## 防除対策

- ・葉での被害は少なく目立たないが、塊茎での被害が近年多くなっているため、開花期以降に防除する。

## ●アブラムシ類

### 予報の根拠

- ・4月下旬の巡回調査では、寄生株率は3.5%（平年16.0%）で平年に比べ少なかった。
- ・1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並～多いため、本種の発生は特に助長されない。

## 防除対策

- ・5月は気温の上昇とともに発生又は密度の増加が予想されるので、発生に注意し密度の低いうちに防除を行う。なお、ほ場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源となるので、除草を行う。

## 【チャ】

### <生育の概況>

茶業研究センターの作況園における新芽の生育は、平年より3から4日早まる。

### ●チャハマキ・チャノコカクモンハマキ

#### 予報の根拠

- ・4月中下旬の巡回調査では、チャハマキ越冬幼虫の寄生を認めなかった（平年0.12頭/1.25㎡）。また、チャノコカクモンハマキ越冬幼虫も寄生を認めなかった（平年0.09頭/1.25㎡）。
- ・1か月予報では、気温は高いが降水量は平年並～多い見込みで、両種幼虫の発生はやや早まるが、特に助長されない。

#### 防除対策

- ・平年の防除適期は5月中旬～下旬であるが、地域の予察灯やフェロモントラップの成虫誘殺状況を参考にして防除時期を決定する。また病害虫防除所のホームページでは県内各地の成虫誘殺状況を掲載しているので参考にする。

### ●チャノキイロアザミウマ

#### 予報の根拠

- ・4月中下旬の巡回調査では、平均叩き落とし虫数は0.20頭/4カ所（平年0.87頭/4カ所）で、平年に比べ少なかった。
- ・1ヶ月予報では、気温は高いが降水量は平年並～多い見込みで、本虫の発生は特に助長されない。

#### 防除対策

- ・例年、二番茶生育期から発生が増加するので、新芽の萌芽から開葉期にかけて防除を実施する。5月中に二番茶が萌芽してくるような生育の早い茶園では虫の発生に注意し、被害が出る前に防除を行う。

### ●チャノミドリヒメヨコバイ

#### 予報の根拠

- ・4月中下旬の巡回調査では、平均叩き落とし虫数は0.36頭/4カ所（平年0.14頭/4カ所）と平年に比べ多かった。
- ・1ヶ月予報では、気温は高いが降水量は平年並～多い見込みで、本虫の発生は特に助長されない。

#### 防除対策

- ・例年、二番茶生育期から発生が増加するので、新芽の開葉期に防除を実施する。5月中に二番茶が開葉してくるような生育の早い茶園では虫の発生に注意し、被害が出る前に防除を行う。

### ●カンザワハダニ

#### 予報の根拠

- ・4月中下旬の巡回調査では、株面での寄生葉率は3.4%（平年2.7%）、裾部での寄生葉率は2.9%（平年

4.1%)で平年並の発生であった。天敵のカブリダニ類の発生は、平均叩き落とし虫数0.24頭/4か所(平年0.21頭/4か所)で平年並の発生であった。

- ・1ヶ月予報では、気温は高く降水量は平年並～多い見込みで、天敵のカブリダニ類の増殖に好適で、本虫の発生は助長されない。

#### 防除対策

- ・例年、5月は天敵のカブリダニ類の増加によりハダニの密度抑制が期待される。一番茶摘採後の残葉でのハダニの密度に注意し、密度が高まる前に早めに防除を実施する。

### ●クワシロカイガラムシ

#### 予報の根拠

- ・4月中下旬の巡回調査では、寄生株率は5.4%(平年24.3%)で発生は平年に比べ少なかった。
- ・1ヶ月予報では、気温は高いが降水量は平年並～多い見込みで、本虫の発生は特に助長されない。

#### 防除対策

- ・アメダス気温データを用いた牧之原(菊川市:茶業研究センター)の第1世代幼虫の予想ふ化最盛日は、4月22日現在の計算では5月16日(昨年5月22日)で、平年よりふ化がより早まることが見込まれる。
- ・第1世代の幼虫ふ化時期は、第2世代以降に比べ揃うため防除効果が高い。発生が見られる茶園では幼虫のふ化状況を観察し防除を行う。なお、各地の予想ふ化最盛日と防除適期の目安は、防除所ホームページで提供している。

#### <その他の病害虫>

### ●チャノサビダニ・チャノナガサビダニ

- ・一番茶摘採残葉や摘採が遅くなった一番茶葉に多発することがある。
- ・雨が少なく乾燥条件が続くと、急激に密度が増加する。著しい被害が発生すると、二番茶芽の生育が抑制されることがあるため、発生が見られたら、早めに防除する。

### ●チャトゲコナジラミ

- ・幼虫で越冬したチャトゲコナジラミは、4月中下旬から5月上旬に羽化して成虫が発生する。
- ・成虫の発生が収まる5月中旬から下旬に、若齢幼虫を対象にすそ部を重点的に防除を行う。また薬剤散布をする前に、すそ刈りを行って幼虫密度を下げる。
- ・すす病が発生している生息密度の茶園では、深刈りせん枝を行い、密度を下げた後から防除を行う。

### ●チャノホソガ

- ・新芽生育期と成虫発生期が合致すると発生が多くなる。地域の予察灯やフェロモントラップにおける誘殺虫数の推移や新芽への産卵状況に注意し、適期防除を実施する。なお、成虫の誘殺データについては病害虫防除所ホームページで情報提供している。

### ●炭疽病

#### 防除対策

- ・3月中下旬の巡回調査では、旧葉における平均発病葉数が28.7枚/1.25m<sup>2</sup>(平年12.2枚)と平年より多く、伝染源となる葉が多く残っている。
- ・感染は新芽の上位3~5枚目くらいまでの新葉に限られる。また、感染には10時間以上の濡れが必要で、

新芽の生育期に降雨が続くと発生が多くなる。このため、天候に注意し、二番茶芽の開葉期に防除を実施する。

## ●もち病

### 防除対策

- ・昨年7月の巡回調査では、平均発病葉数 67.7 枚/1.25m<sup>2</sup>（平年 3.5 枚）と平年よりかなり多く、平坦地を含む県下全域で多発した。
- ・伝染源となる担子胞子の発芽には高い湿度（99%以上）が必要で、発芽と菌の生育適温は 16～20℃である。中山間地ではすでに初発が確認されていることから、茶園をよく観察し、発生初期に防除を徹底する。例年発生がみられる茶園では、二番茶の萌芽～開葉期に予防散布を実施する。

## ●褐色円星病(緑斑症)

- ・4月の巡回調査では、平均発病葉率 60.3%（平年 24.3%）と平年より多く、多発園では新芽の下の古葉が落葉していた。落葉すると茶株が消耗することから、減収や品質の低下を招く。
- ・落葉時（3～4月）には防除手段がなく、薬剤による防除適期は三番茶または秋芽生育期である。発生状況はこの時期が最もわかりやすいため発生茶園を確認し、適期に防除する。

## 【ウンシュウミカン】

### <生育の概況>

生育はほぼ平年並で、開花期は平年より 1～6 日早い予想である。

## ●かいよう病

### 予報の根拠

- ・4月の巡回調査では旧葉の発病度は 0.02（平年値 0.17）で、平年に比べ少ない発生だった。
- ・1か月予報では、気温は平年より高く降水量は平年並～多いため、発生を助長する。

### 防除対策

- ・発芽直後から新梢伸長期の降雨により感染が助長されるため、多発園では展葉期に予防散布を行う。

## 【中晩柑類】

## ●かいよう病

### 予報の根拠

- ・4月の巡回調査では旧葉の発病度は 0.5（平年値 0.9）で平年と比べて少ない発生であった。
- ・1か月予報では、気温は平年より高く降水量は平年並～多いため、発生を助長する。

### 防除対策

- ・発芽直後から新梢伸長期の降雨により感染が助長されるため、多発園では展葉期に予防散布を行う。



## 【ウメ、モモ、ビワ、ナシ】

### ●カメムシ類(チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ)

#### 予報の根拠

- ・今年1月に行った落葉中の越冬量調査では、チャバネアオカメムシの越冬虫数は0.7頭/m<sup>2</sup>(平年平均越冬虫数0.8頭/m<sup>2</sup>)と平年並であった。
- ・1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並〜多いため、カメムシ類の飛来時期は平年並であると予想される。

#### 防除対策

- ・ほ場での発生状況や、地域の予察灯・フェロモントラップでの誘殺状況に注意し適期に防除する。誘殺データは病害虫防除所ホームページで提供している。

## 【キウイフルーツ】

### ●かいよう病

#### 予報の根拠

- ・4月の巡回調査では、発病葉率は0.2%（平年値なし）と低率であった。ただし、展葉初期で葉の病徴が確認しづらい時期であったこと、既に白濁した樹液が漏出し菌が検出された樹もみられたことから、葉に病徴は現れていないものの感染している樹は複数あると予想される。今後の発生に注意が必要である。
- ・本病原菌の生育適温は10℃～20℃であり、風雨により飛散し気孔や傷口から感染する。1か月予報では、気温は平年より高く降水量は平年並〜多いため、発生を助長する。

#### 防除対策

- ・細菌病であることから、樹体内に一度細菌が侵入してしまうと根本的な治療は難しい。そのため防除は予防対策が中心となる。
- ・受粉結実後～果実肥大期までにコサイド3000を予防散布する。散布にあたっては、葉害軽減のためクレフノンを加用する。
- ・管理作業によっても感染するため、せん定器具はこまめに消毒する。
- ・キウイフルーツは風に弱く傷害を受けやすいため、防風対策を徹底する。
- ・詳細な防除方法については農林水産省の技術情報のページ (<http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gai-cyu/siryou2/>) のうち、「キウイフルーツかいよう病Psa3系統の当面の防除対応マニュアル」、「かいよう病まん延防止パンフレット」等を参考にする。

## 【カキ】

### <その他の病害虫>

### ●チャノキイロアザミウマ

#### 予報の根拠

- ・アメダスデータを用いたシミュレーションによると、多くのカキ産地では本種第1世代成虫の発生時期は5月12日～24日と予想される。

- ・ほ場での発生状況は、病害虫防除所ホームページに掲載している「チャノキイロアザミウマ発生時期予測」を参考に、第1世代成虫を対象として防除を行う。

## 【キク(露地)】

### ●白さび病

#### 予報の根拠

- ・昨年10月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年発病株率0.04%）。
- ・1か月予報では、降水量は平年並～多いため、本病の発生を助長する。

#### 防除対策

- ・発生ほ場では、罹病性品種を中心に薬剤散布を行う。ただし、薬剤によっては薬害が出やすいので、新しい品種では小規模の試し散布を行う。
- ・発病葉は感染源となるため速やかに摘み取り、土中に埋めるかビニール袋に入れるなどして適切に処分する。

### ●黒斑・褐斑病

#### 予報の根拠

- ・昨年10月下旬の巡回調査では、平均発病株率は41.0%（平年6.0%）と平年より多い発生であった。
- ・1か月予報では、降水量は平年並～多いため、発生を助長する。そのため、多発生の状況は継続すると考えられる。

#### 防除対策

- ・本病は、潜伏期間が長く発病後の防除では手遅れとなるので、薬剤の予防散布を行う。
- ・発病葉は感染源となるため速やかに摘み取り、土中に埋めるかビニール袋に入れるなどして適切に処分する。
- ・土の上に落ちた被害葉が伝染源となるため、被害葉をほ場に放置しない。
- ・親株が罹病しているとそこから新芽に伝染し、定植してから発病することが多いため、発病が見られる株を親株として用いない。

### 3. 季節予報

#### (1) 1か月予報

(東海地方 平成28年4月21日 名古屋地方気象台発表)

【予報期間】 4月23日から5月22日

【予想される向こう1か月の天候】

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、少ない確率50%です。週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

【確 率】

期間	要素	低・少	平年並	高・多%
1か月	気温	20	30	50
1か月	降水量	20	40	40
1か月	日照時間	50	30	20
1週目	気温	20	30	50
2週目	気温	20	30	50
3～4週目	気温	20	40	40

【予報の対象期間】

1か月 : 4月23日(土)～5月22日(日)

1週目 : 4月23日(土)～4月29日(金)

2週目 : 4月30日(土)～5月6日(金)

3～4週目 : 5月7日(土)～5月20日(金)

## (2) 3か月予報

(東海地方 平成28年4月25日 名古屋地方気象台発表)

【予報期間】 5月から7月

【予想される向こう3か月の天候】

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。この期間の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

5月 天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、高い確率50%です。

6月 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

7月 平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

【気温】

3か月			5月			6月			7月		
低	並	高	低	並	高	低	並	高	低	並	高
20	30	50	20	30	50	20	40	40	30	40	30

【降水量】

3か月			5月			6月			7月		
少	並	多	少	並	多	少	並	多	少	並	多
20	40	40	30	40	30	30	30	40	20	40	40

※参考資料

	平均気温 (°C)			降水量 (mm)		
	4月	5月	6月	4月	5月	6月
浜松	14.7	18.7	22.0	168	191	241
静岡	14.9	18.8	22.0	210	213	293
三島	14.4	18.5	21.9	149	161	228

\*降水量は小数点以下を四捨五入しています。

※参考資料

1. 利用上の注意

- ・気温・降水量は「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1981~2010年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります。(気候的出現率と呼びます)。
- ・晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

【問合せ先】 静岡県病害虫防除所

〒438-0803 磐田市富丘678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

URL <http://www.agri-exp.pref.shizuoka.jp/boujo/boujo.html>

平成 28 年度 技術情報第 1 号  
ジャガイモ 疫病

平成 28 年 4 月 27 日  
静岡県病害虫防除所長

昨年に引き続き、県西部地域でジャガイモ疫病の発生が確認されました。  
発生の拡大が予想されるため、防除の徹底をお願いします。

1 発生状況

4 月下旬に県西部地域で行ったジャガイモの巡回調査において、低率ながら疫病の発生を確認した。4 月の調査における発生確認は、過去 20 年間のうち、本病の多発した平成 27 年に引き続き 2 度目である（表 1）。本病は短期間で蔓延し、生育初中期の発病は経済的被害が大きいことなどから、今後注意が必要である。

2 発病条件

葉、茎、塊茎など全ての部位に発病する。また、本病原菌は多湿を好み、水媒伝染するため、気温が 20℃前後で降雨や曇天が続く時に多発する。

気象の一个月予報では、今後の気温は平年より高く降水量は平年並～多いと予想され、感染・発病に好適な条件が続くことから、発生の拡大が懸念される。

3 防除方法

疑われる症状がある場合や、周辺ほ場で多発している場合など、感染源が多いと予想されるほ場では、薬剤を予防的に散布する。前年に発生したほ場では土壌中の残渣に病原菌が生き残っている可能性があるため、特に注意する。

発生ほ場では、保護効果や治療効果の期待できる薬剤を 7～10 日おきに散布する（表 2）。また、薬剤が葉裏まで十分付着するよう丁寧に散布する。

(3) 塊茎への感染を防止するため土寄せを行う。

(4) 周囲への感染拡大を防ぐため、被害株や被害残渣は塊茎も含めきれいに取り除き、ほ場外に持ち出し焼却処分する。感染源になるため、ほ場の周辺には放置しない。

表 1 ジャガイモ疫病の発生状況

	平成 27 年			平成 28 年
	4 月下旬	5 月上旬	5 月下旬	4 月下旬
発病株率 (%)	21.9 (0.0)	36.7 (1.0)	40.2 (6.3)	0.2 (2.2)
発生面積率 (%)	100 (0)	91 (16)	100 (46)	8 (10)

※ ( ) 内は過去 10 年間の平年値を示す

平成 7 年～26 年は 4 月の発生なし



図1 罹病初期の葉



図2 罹病した茎葉

表2 ジャガイモ疫病に対する主な薬剤

期待できる 効果	商品名	使用 方法	希釈倍率	使用時期	本剤の 使用回数	FRACコード <sup>1)</sup>	
						成分1	成分2
保護効果	コサイド3000	散布	1000倍	-	-	M1	
	Zポルドー	散布	400倍	-	-	M1	
	ドイツポルドーA	散布	400~800倍	-	-	M1	
	ジーファイン水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	-	M1	NC
	ジマンダイセン水和剤	散布	400~600倍	収穫7日前まで	10回以内	M3	
	ジマンダイセンDF	散布	600倍	収穫7日前まで	10回以内	M3	
	ダコニール1000	散布	500~1000倍	収穫7日前まで	5回以内	M5	
	ペンコゼブ水和剤	散布	400~600倍	収穫7日前まで	10回以内	M3	
	ライメイフロアブル	散布	2000~3000倍	収穫7日前まで	4回以内	21	
	ランマンフロアブル	散布	1000~2000倍	収穫7日前まで	4回以内	21	
	レーバスフロアブル	散布	1500~2000倍	収穫7日前まで	2回以内	40	
	エムダイファー水和剤	散布	400~650倍	収穫14日前まで	7回以内	M3	
	フロンサイド水和剤	散布	1000~2000倍	収穫14日前まで	4回以内	29	
	エキナイン顆粒水和剤	散布	2000~3000倍	収穫7日前まで	3回以内	27	40
保護効果 + 治療効果	カーゼートPZ水和剤	散布	600~800倍	収穫7日前まで	4回以内	27	M3
	プロポーズ顆粒水和剤	散布	750~1000倍	収穫7日前まで	3回以内	40	M5
	ホライズンドライフロアブル	散布	1000~2500倍	収穫14日前まで	4回以内	27	11
	フェスティバルC水和剤	散布	400~600倍	収穫14日前まで	3回以内	40	M1

<sup>1)</sup> 殺菌剤耐性菌対策委員会による作用機構による分類

※農薬の使用に当たっては、必ずラベルを確認し使用基準を遵守する。

耐性菌の発生を防ぐため同一FRACコードを含む薬剤の連用を避ける。

静岡県農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準 (<http://www.s-boujo.jp>) に掲載されている薬剤から抜粋 (平成28年4月 日時点 JPP-NET 配信データによる)

【問合せ先】 静岡県病害虫防除所

〒438-0803 磐田市富丘678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

URL <http://www.agri-exp.pref.shizuoka.jp/boujo/boujo.html>